

令和6年度 授業改善推進プラン (小学校・専科教員用)

福生市立福生第一小学校

算数科	
<p>児童の実態</p> <p>※必要に応じて学年ごとに記載</p>	<p>○2学級を補充・標準・発展の3コースに分け、習熟に応じた学習指導の中で、ふっさつ子スタンダードを守り、落ち着いて授業に臨むことができている。(全学年)</p> <p>○補充コースの児童も自分のペースで学習を進めることができるため、自ら学ぼうとする姿勢がある児童が多い。(全学年)</p> <p>○福生市学力調査では、全体的に福生市の平均正答率を上回った。中でも、全学年で「図形」の領域が福生市の平均を大きく上回った。(全学年)</p> <p>○福生市学力調査では、「変化と関係」の領域の平均正答率が福生市の平均正答率より9.5ポイント上回った(第5学年)</p> <p>○福生市学力調査では、「単位量あたりの大きさ」を問う設問において、福生市の平均正答率より4.4ポイント上回った。(第6学年)</p> <p>①福生市学力調査では、数と計算の領域の問題において全国の平均よりも下回った。(全学年)</p> <p>②福生市学力調査では、記述式の問題に課題が見られた。学力層分析ではパターンⅡ(A-D層の差が大きく、なおかつB-C層の差が大きい場合)を示している。(第4・5学年)</p>
<p>児童の実態を踏まえた授業改善の取組</p> <p>※必要に応じて学年ごとに記載</p>	<p>①基礎的・基本的な内容の定着を図るため、繰り返し計算練習をする時間を授業内で設定する。また、ベーシックドリル診断シートを用いて実態を把握する。結果をもとに朝学習の時間を活用して指導を行うとともに、授業においても個々の力に応じた支援を行う。</p> <p>②記述式の出題に対応できるように、次のことに重点を置いた指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定着度が二極化の傾向にあるので、児童の定着に合わせた習熟度別指導を行う。</li> <li>・児童が、自分の考えを伝えたいと思える問題を提示するとともに、他者と学ぶ中で自分の考えを理解してもらいたいという場面を意図的に作り出す。</li> <li>・既習事項を活用した問題解決を行わせることで、関係付ける力を育てる。</li> <li>・自分の考えをノートに書く時間を十分に確保する。その際、図や式、言葉を関連付けてノートに記述させることで表現力を育てる。</li> <li>・場面に応じて、ペア・グループ・全体など形態を変えて表現をさせたり、会話や文字など方法を変えて表現させたりすることで、多様な表現方法で自分の考えを分かりやすく他者に伝えることができるようにする。</li> </ul>